2026-09-25 終値時点 · 決算は2026年Q2（2026-06-30）まで（10-Qは2026-08-07提出）。期後に9月23日のインベスター・デーに関する8-Kあり

**マクドナルド** MCD

# マクドナルド：米国既存店売上高の伸びは0.8%に鈍化、株価は約3割下落しPERは約18倍

事業は安定しているが、減速している。過去12カ月の売上高は$27.7B（+6.3%。為替の寄与が大きく、Q2の恒常為替ベースの売上高は2%増にとどまる）、営業利益率は46.2%、フリーキャッシュフローは$7.8Bである。株価は2月の高値から約30%下落した。直接の契機は9月23日のインベスター・デーである。同社は2036年までにフランチャイジーへ約$8.5Bの支援（賃料減免と資本支援）を行うと発表し、報道によれば米国のQ3既存店売上高について「小幅なマイナス」との見通しを示した。株価は当日5.6%下落した。データ照合では、yfinanceの基本的な数値は決算書と一致するが、フリーキャッシュフローを約$1.5B過小に計算し、総負債に$14.7Bのリース負債を含めている。株主資本はマイナス（-$1.0B）であり、PBRとROEは参考にならない。

| レーティング · 12カ月 · 対 S&P 500 | 株価 | 時価総額 | 1年騰落率 | 今期予想PER |
|---|---|---|---|---|
| 買い<br>2026-10-01 確定 · レーティングの定義 | $236.50<br>2026-09-25 終値 | $167.4B<br>Consumer Cyclical | -19.8%<br>年初来 -21.1% | 18.3x<br>EPS 12.90（アナリスト平均） |
| 次回決算<br>2026-11-05<br>yfinance カレンダー | | | | |

01

## 相場環境

**指数**：2026-09-25時点で、S&P 500は年初来+13.1%、ナスダックは+16.5%である。ただし直近1カ月ではダウ平均が-3.1%、ラッセル2000が-5.6%となり、資金は大型テック株に集中している。

**セクター**：一般消費財ETF（XLY）は年初来-6.8%、1カ月で-5.4%と、消費関連全体が軟調である。当銘柄は年初来-21.1%で、セクターをさらに14ポイント下回る。セクターの逆風に会社固有の問題が重なった形である。

**金利**：米10年債利回りは5.18%で、1カ月で約52bp上昇した。FRBは9月16日に25bpの利上げを実施した。

**当銘柄への影響（推測）**：① 配当利回りは約3.2%と米10年債利回りを明確に下回り、「債券代替」のディフェンシブ株としての魅力は低下している。② 原油高と金利上昇が中低所得層の家計を圧迫し、外食の客数に逆風となる。③ 過去1年、当銘柄とS&P 500の相関はほぼゼロ（相関係数0.01）であり、株価は主に固有要因で変動している。

## 指数とセクター

| | 直近 | 1週間 | 1カ月 | 3カ月 | 年初来 | 1年 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| S&P 500 | 7,743.41 | +1.2% | +0.9% | +5.3% | +13.1% | +17.2% |
| ナスダック総合 | 27,068.72 | +2.1% | +3.6% | +7.0% | +16.5% | +20.9% |
| ダウ工業株30種 | 51,828.62 | +0.3% | -3.1% | -0.1% | +7.8% | +12.8% |
| ラッセル2000 | 2,837.55 | -0.8% | -5.6% | -5.7% | +14.3% | +17.7% |
| Consumer Cyclical セクター ETF | 110.56 | -0.2% | -5.4% | -3.1% | -6.8% | -5.6% |
| **MCD** | **236.50** | **-4.7%** | **-10.8%** | **-11.7%** | **-21.1%** | **-19.8%** |

## 金利・ボラティリティ・相対パフォーマンス

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| VIX 恐怖指数<br>14.87<br>1カ月 -0.34 | 米10年債利回り<br>5.18%<br>1カ月 +52bp | ドル指数<br>100.97<br>1カ月 +1.80 | 対 S&P ベータ<br>0.01<br>1年相関係数 0.01 | 3カ月の超過リターン<br>-17.0%<br>対 S&P 500 |
| 1年の超過リターン<br>-37.0%<br>対 S&P 500 | | | | |

## マクロと市場の出来事

| 日付 | 出来事 | この銘柄にとっての意味 | 出典 |
|---|---|---|---|
| 2026-09-16 | FRBが25bp利上げし3.75%–4.00%に。2023年以来初の利上げで、ドットチャートは年内あと1回の利上げを示唆 | 借入コストの上昇により消費者の可処分所得が圧迫され、外食頻度が低下する（推測）。無リスク金利の上昇により、高配当ディフェンシブ株の相対的な魅力が低下する（推測）。 | CNBC |
| 2026-09-09 | 米国とイランの衝突が激化、原油価格が1バレル$100を突破 | 原油高により消費者の燃料費負担が増え、外食支出が圧迫される（推測）。輸送費と原材料費も押し上げられる。報道によれば、今月の米国のディーゼル価格は1ガロン$6.23に達した。 | AP / The Columbian |
| 2026-09-26 | Bloomberg：2025年8月から2026年7月まで、外食業界の客数は1カ月を除き毎月純減。消費者が値上げに抵抗 | 業界全体の客数減少は、同社がQ2の米国事業について説明した「客数はマイナスで、客単価が伸びを支えた」という内容と整合的である（10-Q）。 | Bloomberg |

02

# イベント

2026-09-24

悪材料 ニュース

**CEO：インフレは高止まりが「何年も」続く、牛肉コストは5年でほぼ倍増**

経営陣はコストと消費環境について慎重な見方を示している。値上げの余地は限られ、利益率の改善は効率化への依存度が高まる（推測）。

出典：24/7 Wall St.；Bloomberg

2026-09-24

悪材料 レーティング

**少なくとも6社が同日に目標株価を引き下げ**

BTIG $350 → $295、BMO $335 → $310、Evercore $320 → $300、JPMorgan $280 → $260、TD Cowen $282 → $270、RBC $290 → $285。レーティングはおおむね据え置きである（yfinanceのレーティングデータ）。インベスター・デー後、市場の期待は全般に下方修正された。

出典：yfinance 评级变动

2026-09-23

悪材料 ニュース

**報道：米国Q3既存店売上高は「小幅なマイナス」の見通し、50,000店舗目標は2028年に先送り**

いずれも8-Kのプレスリリースには含まれず、インベスター・デーの会場で示された内容である。報道ベースであり、SEC提出書類では確認できなかった。米国既存店売上高はQ2に+0.8%と、1年余りで最も低い伸びとなった。Q3がマイナスとなれば、減速が継続していることを意味する。

出典：Bloomberg；24/7 Wall St.

2026-09-23

悪材料 8-K

**インベスター・デーでNEXT戦略を発表：2036年までにフランチャイジーへ約$8.5Bを支援**

8-Kで開示された目標は以下のとおりである。2030年の営業利益率は50%台前半から半ば（現在のTTMは46.2%）。2027–2030年の基本設備投資は年約$3Bで、これとは別に累計$1.5–2Bの資本パートナーシップ支援を行う。2030年のフリーキャッシュフロー転換率（FCF ÷ 純利益）は「80%台半ばから後半」とする。$8.5Bのパートナーシップ支援のうち約$5Bは2030年までに投じられ、形態は賃料減免と資本支援である。賃料は同社のフランチャイズ収入の柱であり、賃料減免は収入を直接押し下げる（推測）。また、現在のTTM転換率は約88%（推定）であり、2030年の目標は現状を上回るものではない。報道によれば、CFOは同社自身の投資回収期間を5–6年と述べた。株価は当日5.6%下落した。

出典：8-K item 7.01（2026-09-23）；媒体报道

2026-08-04

未確定 8-K

**米国事業トップが交代：Joe Erlinger氏が退任、Skye Anderson氏が就任**

8-Kによれば、Erlinger氏は2027年初めまで報酬据え置きで顧問を務める。CEOはプレスリリースで、米国市場には「基準を引き上げ、業績を加速させる機会がある」と述べた。トップ交代は米国の業績減速と直接関連しており、効果は今後数四半期の業績で検証されることになる。

出典：8-K item 5.02（2026-08-04）

---

2026-08-04

中立 決算

**Q2決算：GAAP EPS $3.32、調整後$3.38、全世界既存店売上高+1.3%**

調整後EPSはコンセンサスを1.8%上回った（yfinance）。しかし米国既存店売上高は+0.8%にとどまり、伸びは客単価と商品構成によるもので、客数はマイナスであった。中国の既存店売上高もマイナスである。売上高は+4%、恒常為替ベースでは+2%にとどまる。販管費は17%増加した。人件費（インセンティブ報酬を含む）とグローバル・フランチャイジー大会の費用が要因である（10-Q）。

出典：8-K item 2.02（2026-08-04）

赤は好材料、緑は悪材料（中国の既存店売上高もマイナスである。売上高は+4%、恒常為替ベースでは+2%にとどまる。販管費は17%増加した。人件費（インセンティブ報酬を含む）とグローバル・フランチャイジー大会の費用が要因である（10-Q）。

## 過去90日のアナリスト評価の変更（28件、直近12件を表示）

| 日付 | 機関 | 動き | 評価 | 目標株価 |
|---|---|---|---|---|
| 2026-09-24 | BMO Capital | main | Outperform → Outperform | 335 → 310 |
| 2026-09-24 | JP Morgan | main | Overweight → Overweight | 280 → 260 |
| 2026-09-24 | Evercore ISI Group | main | Outperform → Outperform | 320 → 300 |
| 2026-09-24 | RBC Capital | main | Sector Perform → Sector Perform | 290 → 285 |
| 2026-09-24 | BTIG | main | Buy → Buy | 350 → 295 |
| 2026-09-24 | TD Cowen | main | Hold → Hold | 282 → 270 |
| 2026-09-21 | UBS | main | Buy → Buy | 340 → 320 |
| 2026-09-17 | Citigroup | main | Buy → Buy | 345 → 310 |
| 2026-09-16 | BTIG | reit | Buy → Buy | 350 → 350 |
| 2026-09-16 | Seaport Global | init | – → Neutral | 0 → 0 |
| 2026-09-15 | RBC Capital | main | Sector Perform → Sector Perform | 295 → 290 |
| 2026-09-14 | Deutsche Bank | main | Buy → Buy | 325 → 300 |

yfinance の集計で、個別には検証していません。up 引き上げ、down 引き下げ、main 据え置き、init 新規、reit 再表明。

---

03

# レーティングとスコアカード

## 当社のレーティング

買い 今後12カ月のトータルリターンが S&P 500 を10〜20ポイント上回ると予想・スコアカード加重点 3.05

**発行者のレーティング：買い。ルールに基づく推奨（中立、スコアカード加重スコア3.05）より1段階上である。**

ルールはモメンタムを1点と評価した。株価は2月の高値から約30%下落し、9月25日には1年来安値で引けた。ただし、主要な悪材料は概ね株価に織り込まれており、現在のバリュエーションは同社の収益性とキャッシュフローの質に比して低いと判断する。

**バリュエーションは割安である。** 今期予想PERは18.3倍で、同業中央値21.7倍を約16%下回る。フリーキャッシュフロー利回りは約4.6%、配当利回りは約3.2%である。

**高収益のフランチャイズ・モデルに変化はない。** 店舗の約95%はフランチャイジーが運営し、営業利益率は46%超と同業最高である。第2四半期の営業利益率は47.0%で、前年同期とほぼ同水準である。

**85億ドルのフランチャイジー支援は防御的な投資であり、影響は限定的である。** 支援は2036年まで続き、米国の客数回復を目的とする。今後数年の賃料収入とフリーキャッシュフローを押し下げるが、規模は時価総額の約5%であり、事業の基礎的な収益力を損なうものではない。

**主なリスクとレーティング変更の条件：** 株価は依然として下落トレンドにある。インベスター・デー後、アナリストがEPS予想をさらに引き下げれば、PERは上昇する（推測）。リース負債を含めた純有利子負債/EBITDAは約3.6倍で、株主資本はマイナスである。第3四半期の米国既存店売上高のマイナス確定、2027年見通しの下方修正、またはEPS予想の大幅な引き下げは、いずれも格下げの要因となる。

レーティングは公開情報にもとづくリサーチ上の見解で、特定の個人の資産状況を前提にしたものではありません。ルールと分布は レーティングの定義

| ファンダメンタルズ | バリュエーション | モメンタム | 決算の質 | リスク |
|---|---|---|---|---|
| 2 / 5 | 4 / 5 | 1 / 5 | 4 / 5 | 4 / 5 |

リスクの点数は高いほどリスクが低いことを示します。5項目の加重点から推奨レーティングを出し、発行者が確認して確定します。

## この点数の理由

**ファンダメンタルズ**
2 / 5

名目売上高のTTM +6.3%は3点の区分に該当するが、1段階引き下げる。① 為替の寄与が大きく、Q2の恒常為替ベースの売上高は+2%、上期は+3%にとどまる（8-K）。② 既存店売上高の減速が鮮明であり、全世界は前年同期の3.8%から1.3%へ、米国は2.5%から0.8%に低下し、報道によれば米国のQ3見通しはマイナスに転じた。③ 米国は客数が減少しており、成長は値上げに依存している。利益率は引き続き高く安定している。Q2の営業利益率は47.0%で、前年同期は47.2%であった。

売上高TTM +6.3%、Q2恒常為替ベース+2%。米国既存店売上高Q2 +0.8%。営業利益率TTM 46.2%

**バリュエーション**
4 / 5

今期予想PERは18.3xで、同業中央値21.7xを約16%下回り、4点の区分に該当する。PEGは約2.4（18.3 ÷ 2027年EPS予想成長率7.5%）で、引き下げ基準の2.5に近いものの超えていないため、調整しない。売上高成長率3.7%は同業中央値4.6%をやや下回る。留意点として、割安さは主に成長鈍化とインベスター・デー後の期待の下方修正を反映している。インベスター・デー後、アナリストのEPS予想はさらに引き下げられる可能性があり、その場合PERは上昇する（推測）。

今期予想PER 18.3x、同業中央値21.7x。PEG約2.4。売上高成長率3.7%（同業中央値4.6%）

**モメンタム**
1 / 5

すべての期間で大幅に劣後している。3カ月、6カ月、1年、年初来で、S&P 500をそれぞれ17.0、43.2、37.0、34.2ポイント下回る。株価は50日移動平均（-10.2%）と200日移動平均（-19.1%）を下回り、9月25日には1年来安値で引け、下落幅はなお拡大している。

超過リターン3M -17.0%、1Y -37.0%。1年来高値から-29.3%

**決算の質**
4 / 5

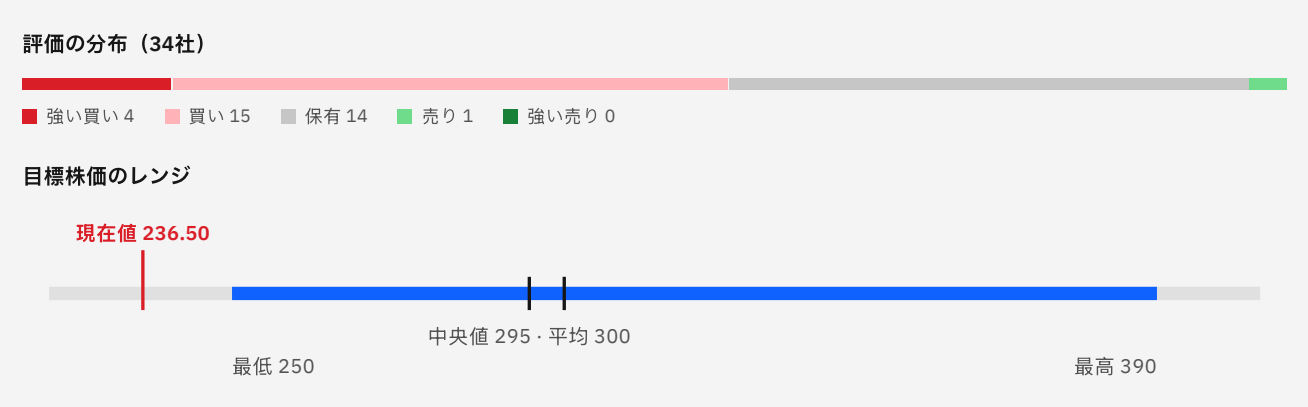
主要指標は健全である。営業外損益は僅少で、TTMのフリーキャッシュフロー / 純利益は約0.88、売上債権回転日数は32–34日で安定している（推定）。1点減点の理由は、調整後ベースが長年にわたりリストラ費用を除外していることである。「Accelerating the Organization」は2023年以来累計$795M、2026年は約$250Mの見込みで、終了は2027年である（10-Q）。複数年にわたり継続的に発生している費用は、一時的項目とはみなし難い。また「その他の営業収益」には店舗売却益（上期$70M）が含まれるが、金額が小さいため減点しない。

FCF $7.8B / 純利益$8.8B = 0.88。リストラ費用累計$795M

**リスク**
4 / 5

5点から1点を減点した。$8.5Bのフランチャイジー向けパートナーシップ支援は時価総額（$167.4B）の約5.1%で、5%の基準を超える（8-K、2026-09-23）。その他は減点なしである。1年ボラティリティ19.2%、最大ドローダウン-29.3%はいずれも基準内である。店舗の約95%はフランチャイジーが運営しており、特定顧客への集中はない。有利子負債

## ウォール街の見方




yfinance の集計、アナリスト29人、更新時期は不明。分布を示すだけで、目標株価を裏づけるものではありません。

04

# 決算を読み解く

## 四半期業績

| 四半期末 | 売上高 | 前期比 | 前年比 | 粗利率 | 営業利益率 | 純利益 | 希薄化後EPS | 営業CF | フリーCF |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2025-06-30 | $6.8B | +14.9% | +5.4% | – | 47.2% | $2.3B | 3.14 | $2.0B | $1.3B |
| 2025-09-30 | $7.1B | +3.4% | +3.0% | – | 47.4% | $2.3B | 3.18 | $3.4B | $2.4B |
| 2025-12-31 | $7.0B | -1.0% | +9.7% | – | 45.0% | $2.2B | – | $2.7B | $1.6B |
| 2026-03-31 | $6.5B | -7.0% | +9.4% | – | 45.3% | $2.0B | 2.78 | $2.4B | $1.7B |
| 2026-06-30 | $7.1B | +8.9% | +3.7% | – | 47.0% | $2.4B | 3.32 | $2.8B | $2.0B |

出典：SEC XBRL。フリーキャッシュフロー＝営業キャッシュフロー – 設備投資。第4四半期の EPS は XBRL に欠けることが多く、会社発表の数字を優先します。

## バリュエーション

| 基準 | EPS | PER |
|---|---|---|
| GAAP、直近12カ月 | 12.32 | 19.2x |
| 調整後、直近12カ月（アナリスト基準） | 12.55 | 18.8x |
| 今期予想（0y） | 12.90 | 18.3x |
| 来期予想（+1y） | 13.87 | 17.1x |

今期（2026年）の予想EPSは$12.53–$13.23、2027年は$12.90–$14.73で、予想のばらつきは小さい。現在の株価に基づく配当利回りは約3.2%である（yfinanceのdividendYield 3.26はパーセント表示）。目標株価はインベスター・デー後に軒並み引き下げられており、下記の目標株価分布はまだ完全には更新されていない可能性がある。

現在の株価で計算。予想 EPS は yfinance が集計したアナリスト平均で、調整後ベースです。

## 決算書が語っていること

売上高、純利益、GAAP EPS、営業キャッシュフロー、棚卸資産は、XBRLと四半期ごとに照合し、一致を確認した。相違点と留意点は以下のとおりである。

**営業利益の1–2%の差は定義の違いによるもので、データの誤りではない**：yfinanceのOperating Incomeは「その他の営業（収益）費用（純額）」を除外している。例えばQ2の決算書上の営業利益は$3,338Mで、この項目は$37Mの収益であり、yfinanceの表示は$3.30Bである。Q1も同様である（10-Q、2026-08-07）。この項目には店舗売却益、関連会社の持分法投資利益（上期$122M）、資産処分損益、リストラ費用が含まれる。本レポートでは決算書の数値を採用する。

**成長の質**：Q2の売上高は+4%、恒常為替ベースでは+2%にとどまる。上期は+6%、恒常為替ベースで+3%である（8-K、2026-08-04）。米国の既存店売上高の伸びは客単価と商品構成によるもので、客数はマイナスである（10-Q）。

**販管費17%増**：人件費（インセンティブ報酬を含む）と2026年のグローバル・フランチャイジー大会の費用が要因である。上期の販管費はシステム全体売上高の2.2%で、前年同期は2.1%であった（10-Q）。インベスター・デーでは2030年に約1.9%へ引き下げる目標が示された（8-K、2026-09-23）。

**キャッシュフローは堅調**：TTMの営業キャッシュフローは$11.3B、設備投資は$3.6B、フリーキャッシュフローは$7.8Bで、転換率は約88%（推定）である。上期の自社株買いは$1.25B、配当は$2.64Bであった（10-Q）。

**負債**：有利子長期負債は$39.9Bで、上期に$1.16Bを発行し$0.58Bを返済した。Q2の支払利息は$409M（+5%）である。8.01項または2.03項の8-Kは確認されず、社債発行は既存の登録枠内で行われている（10-Q）。

## 原資料にしか書かれていないこと

**フランチャイジー向け$8.5Bのパートナーシップ支援**：期間は2036年まで。うち約$5Bを2030年までに投じ、形態は賃料減免と資本支援である。これとは別に、2027–2030年に年約$3Bの基本設備投資と累計$1.5–2Bの資本パートナーシップがある（8-K、2026-09-23）。これらのコミットメントは未だ貸借対照表に計上されていない。

**2030年の財務目標**：営業利益率は50%台前半から半ば。G&Aはシステム全体売上高の約1.9%。フリーキャッシュフロー転換率は「80%台半ばから後半」。新規出店によるシステム全体売上高成長への寄与は、2027年の2.5%近くから2030年には約2%へ低下する（8-K、2026-09-23）。

**リストラは継続中**：「Accelerating the Organization」はこれまでに累計$795Mを計上し、2026年にさらに約$250Mを見込む。主に専門サービス費用であり、2027年に完了予定である（10-Q）。

**株主資本はマイナス**：-$1.02B（2026-06-30）。長年の自社株買いと配当の結果である（10-Q）。自社株買い枠の残額は$11.73B（総額$15B、2025年から有効）である。

**債務保証**：約$85M。フランチャイズ・システム内の借入を保証するもので、簿価はゼロである（10-K、2026-02-24）。金額は僅少である。

**中国と日本の関連会社**：投資の簿価は対応する純資産持分を$1.4B上回るが、経営陣は減損の兆候はないとしている。Q2の中国の既存店売上高はマイナスであった（10-Q）。

**非GAAPの定義**：変更なし。引き続き減損とその他の費用・収益（主にリストラ費用）を除外している。

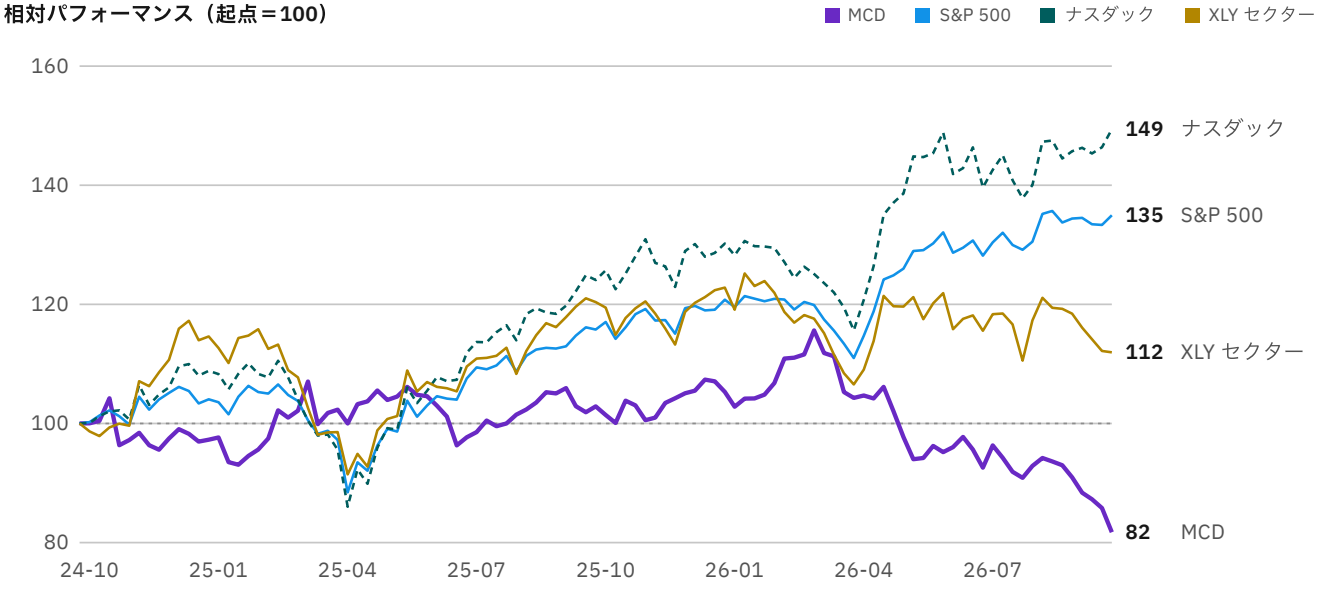
## データベンダーの誤り

| 項目 | yfinance | 原資料（計算方法つき） |
|---|---|---|
| freeCashflow | $6.3B | **$7.8B** = TTM営業キャッシュフロー$11.34B – 設備投資$3.58B（XBRLの4四半期合計） |
| forwardPE | 17.1x | **2027年**のEPS $13.87に基づく。今期（2026年）のEPS $12.90で計算すると**18.3x**となる |
| Operating Income（四半期） | Q2 $3.30B、Q1 $2.88B | 決算書ベースではQ2 **$3.34B**、Q1 **$2.95B**。yfinanceは「その他の営業（収益）費用（純額）」を除外している（10-Q、2026-08-07） |
| totalDebt | $54.6B | 有利子長期負債は**$39.9B**。これにリース負債$14.0B（長期）+ $0.7B（1年以内）を加えた3項目の合計がちょうど$54.6Bとなる（10-Q） |
| priceToBook / ROE | -163.6x / なし | 株主資本は**-$1.02B**であり、PBRとROEは意味を持たないため、バリュエーションの根拠としない |
| dividendYield | 3.26 | パーセント表示であり、3.26%を意味する |

05

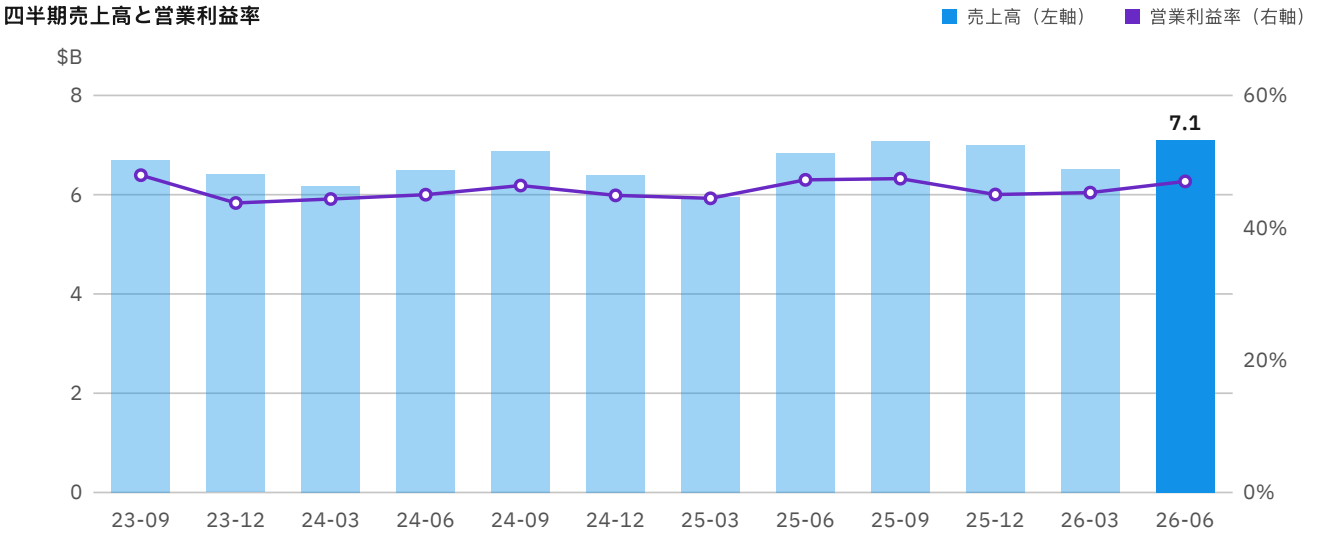
# 株価の推移

**相対パフォーマンス（起点＝100）**




週次終値（調整後）、2024-09-29 を100として指数化。右端の数字は期末の値です。

**四半期売上高と営業利益率**




直近12四半期。出典：SEC XBRL。

06

# 同業比較

| ティッカー | 名称 | 時価総額 | 1カ月 | 年初来 | 1年 | PER 実績 | PER 今期 | 売上成長率 | 粗利率 | 営業利益率 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| MCD | McDonald's Corporation | $167.4B | -10.8% | -21.1% | -19.8% | 19.2x | 18.3x | +3.7% | 57.4% | 46.5% |

| ティッカー | 名称 | 時価総額 | 1カ月 | 年初来 | 1年 | PER 実績 | PER 今期 | 売上成長率 | 粗利率 | 営業利益率 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| YUM | Yum! Brands, Inc. | $37.8B | -9.8% | -7.0% | -6.0% | 17.9x | 21.7x | +12.2% | 45.3% | 32.8% |
| QSR | Restaurant Brands Internatio | $32.8B | -8.8% | +7.8% | +15.0% | 18.2x | 17.6x | +4.6% | 34.1% | 27.7% |
| CMG | Chipotle Mexican Grill, Inc. | $39.6B | -16.1% | -15.3% | -20.3% | 29.0x | 27.3x | +9.3% | 39.4% | 16.1% |
| SBUX | Starbucks Corporation | $108.1B | -12.6% | +14.7% | +16.0% | 54.8x | 36.6x | -1.4% | 22.3% | 12.9% |
| DPZ | Domino's Pizza Inc | $9.7B | -14.7% | -28.7% | -29.4% | 16.6x | 15.3x | +4.3% | 28.7% | 19.1% |
| *同業中央値* | | *$37.8B* | *-12.6%* | *-7.0%* | *-6.0%* | *18.2x* | *21.7x* | *+4.6%* | *34.1%* | *19.1%* |

yfinance の集計で、決算書とは照合していません。今期PER＝株価 ÷ 今期（0y）予想 EPS。forwardPE が来期ベースになる問題を避けています。同業の出典: --peers。中央値は本銘柄を除きます。

同業は世界のファストフードおよび外食チェーンから個別に選定した：YUM、QSR、CMG、SBUX、DPZ（yfinanceの自動選定も外食企業であるが、本レポートではこの5社に固定）。当銘柄の今期予想PER 18.3xは同業中央値21.7xを下回り、これより低いのはQSR（17.6x）とDPZ（15.3x）のみである。営業利益率46.5%は同業で最も高く、フランチャイズ比率が高く賃料収入を主体とするモデルの特徴である。しかし売上高成長率3.7%は6社中5位で、下回るのはSBUXのみである。1年リターン-19.8%も、CMG（-20.3%）とDPZ（-29.4%）をわずかに上回る程度である。ファストフード業界全体が消費者の節約志向の影響を受けており、MCDの場合はそこにインベスター・デーでの期待の下方修正が重なった。同業データはyfinanceの集計値であり、各社の決算書とは照合していない。

07

# スマートマネー

## 誰が持ち、誰が売買しているか：追跡している人物のうち 3 人が MCD を保有

| 人物 | データ | 報告期間 | 評価額 / レンジ | ポートフォリオ比率 | 四半期の変化 |
|---|---|---|---|---|---|
| ルネサンス・テクノロジーズ | 13F 保有 | 2026-06-30 | $95M | 0.1% | 一部売却 |
| ジョージ・ソロス | 13F 保有 | 2026-06-30 | $33M | 0.4% | 据え置き |
| レイ・ダリオ | 13F 保有 | 2026-06-30 | $15M | 0.1% | 買い増し |

各人物の最新の公開済み 13F、インサイダー報告、資産開示から。13F には約45日の遅れがあります。 スマートマネー →

08

# この先の注目点

2026-10-05

**「Make It Golden」計画の開始（創業者の日）**

サービスと商品体験の改善計画の実行状況（8-K、2026-09-23）。

---

2026 年 10 月下旬

**次回FOMC**

ドットチャートは年内あと1回の利上げを示唆している。金利と原油による消費の圧迫が強まるかに注目する。正確な日程はFRBの公表スケジュールによる。

---

2026-11-05

**2026年Q3決算**

コンセンサスはEPS $3.39、売上高$7.31B（yfinance）。注目点は、米国既存店売上高が報道どおりマイナスに転じるか、客数データ、販管費の伸びが鈍化するか、$8.5Bのパートナーシップ支援の会計処理（賃料減免を収益の減額とするか費用とするか）である。

---

2026-12-01

**配当落ち日**

12月15日に配当支払い（yfinanceのカレンダー）。

---

2027 年

**リストラ計画の完了、NEXTの設備投資開始**

リストラ費用が予定どおり終了するか。2027年以降の年約$3Bの基本設備投資とパートナーシップ支援がフリーキャッシュフローに与える影響。

---

2030 年

**NEXTの中期目標**

営業利益率50%台前半から半ば、G&A約1.9%、FCF転換率80%台半ばから後半、チキンと飲料のシェアをそれぞれ1.5ポイント引き上げ。

---

リサーチ上の記録であり、投資助言ではありません。

---

# 出典

株価・アナリストデータ：yfinance + SEC EDGAR、2026-09-25 終値時点、遅延あり。財務データ：SEC EDGAR（XBRL と原資料）。マクロとニュースは各項目のリンク先を参照。赤が上昇、緑が下落。

ウェブ検索：Bloomberg：マクドナルド株の下落が30%に、Yahoo Finance / 24/7 Wall St.：インベスター・デーで4%下落、24/7 Wall St.：CEOのインフレ発言、CNBC：FRBの政策決定、AP/The Columbian：原油価格。

---

財務データは SEC EDGAR の原資料から。株価データには遅延があり、出典は各レポートに明記しています。

レーティングはすべての読者に向けたリサーチ上の見解であり、個人への売買の推奨ではありません。投資にはリスクがあります。最終判断はご自身で。